

統計＝国民の共有財産を作り上げる

日本経済の現状を明らかにする

私は今、総務省から内閣府へ出向し、GDP統計の作成に携わっています。GDP(国内総生産)の伸び率が、国の「経済成長率」と呼ばれるように、この統計は一国経済の現状を総合的に明らかにする代表的な公的統計で、政府の景気判断、経済政策の決定、国民の投資判断等のために欠かせないものです。先日公表した2019年10-12月期のGDP速報は、消費増税後の日本経済を捉えた指標として特に注目され、新聞やテレビ等でも大きく報道されました。私はこの統計の作成者の一人として推計作業を行い、変動要因の分析、公表資料の作成、マスコミやエコノミスト等からの問い合わせ対応等の業務を行っています。自分が推計した数値に基づき政府、国民の意思決定がなされるため、その責任は重大ですが、国の重要な統計に携われることにやりがいを感じながら業務を行っています。



内閣府経済社会総合研究所
野村 大輔 平成18年入省
NOMURA DAISUKE

統計は国民の共有財産

公的統計は、「国民の合理的な意思決定を支える重要な情報」であり、「国民の共有財産」といえます。また、今を知るためには過去との比較が重要なように、今私たちが作成している統計は、未来の国民にとっても欠かせない財産になります。国民の共有財産を作り上げ、未来に残していくと考えると、統計作成の仕事も大変意義深く感じます。この公的統計の中核的機関が総務省統計局で、国勢調査等の重要な統計調査を実施し、多くの大切な統計を作成しています。統計の仕事といっても、調査票の設計、都道府県・調査員との調整、広報、審査、分析、公表、国際協力など多岐にわたり、私のように他府省の統計に携わることもあります。その中には、皆さんの力が発揮できる仕事がたくさんあるはず。一緒に、統計＝国民の共有財産を作り上げていきませんか。



参議院行政監視委員会調査室
岩崎 太郎 平成18年入省
IWASAKI TARO

国会の場から臨む行政の景色

総務省は若々しい

私はこれまでも出向により総務省を離れていた経験がありますが、離れてみて改めて感じるのが、総務省の若々しさです。職員の年齢や見た目が・・・という意味ではありません。文書の電子化やテレワーク、サテライトオフィスの推進に率先して取り組むといった若々しさは、前例にとらわれず積極的に課題解決・業務改革に取り組んでいく組織全体の行動力によるものだと思います。また、職場環境について特に実感しているのが、若手の声を前向きに吸い上げようとする風通しの良さです。採用1年目の管区行政評価局。調査テーマ選考に当たって新人の私の意見(タクシーの受動喫煙防止対策)を取り上げていただき、実際にこの調査実施に参画できたことが強く印象に残っています。百聞は一見に如かず。皆様、ぜひ総務省に足を運んで確かめてみてください。

組織初の〇〇

消費者庁は、各府省庁縦割りだった消費者行政を一元的に推し進めるため発足した、消費者行政の司令塔の組織です。所属する国際室では、消費者庁における国際案件の窓口として、国際機関や各国との連携強化に努めています。

消費者庁は2009年に設置された若い組織であるとともに、近年益々国際業務に力を入れてきているため、当室では「消費者庁初の〇〇」に取り組む機会に恵まれています。2019年9月にG20のサイドイベントとして開催したG20消費者政策国際会合もそのひとつで、消費者庁が初めてホストした大規模な国際会合でした。

過去事例の踏襲だけでは立ち行かない現場で、手探りで打開策を模索する日々は非常に刺激的です。通常、他府省へ出向するだけでも大きな変化があり、経験値は上がるものですが、思っていた以上にバラエティ豊かな経験を積むことができています。

いいとこどり

私にとっての総務省の魅力は、中央官庁としての歴史が織りなす安定感と、情報通信などの最新技術が融合している点です。大真面目ないわゆる“お堅い”仕事の側面を持ちながらも、役人のイメージとは一線を画すAI、サイバーセキュリティ、電波、4K・8Kなどのキャッチーなワードが飛び交う現場で、堅実さと柔軟さの両方が求められます。もし、どちらか一方のみが要求される職場であれば、きっと私は胸やけを起こしていたに違いありません。

みなさんも「甘いものだけ、塩辛いものだけでは食べ続けられないけど、交互に食べると無限に食べられちゃって困る一笑」みたいな経験ありませんか。そんな現場です笑。困っちゃうよね〜とニヤニヤしつつ、ときに堅実に、ときに柔軟に、組織の魅力を噛み締めながら、一緒に楽しく働きましょう。

多様な経験・能力が活きる場所



消費者庁消費者政策課国際室
奥山 英行 平成25年入省
OKUYAMA HIDEYUKI

総務省から 霞ヶ関へ

幅広いフィールドで活躍する職員

はい、こちら参議院事務局です

参議院事務局の調査室は、日頃からの情報収集や関連資料の作成等により、委員会や議員の活動をサポートする役割を担っています。説明等のために議員と直接に接する機会は多く、緊張感のある委員会審議に立ち会う際などは、自分が国会職員の一員であると実感します。また、調査室発行誌「立法と調査」において総務省の行政相談委員制度についての論文を執筆し、その幅広い活動実態を紹介できたことは意義深い経験です。現在、行政監視委員会調査室では、参議院の行政監視機能強化に向けた取組の一環として、政府からの政策評価の年次報告を国会での議論にどう活かしていくかを検討しています。総務省在籍時に年次報告の取りまとめに携っていたことを思うと不思議な感覚ですが、立場は変わっても、より良い行政の姿を願い、尽力していく想いは同じです。



内閣官房郵政民営化推進室
鈴木 みなみ 平成29年入省
SUZUKI MINAMI

幅広い可能性が 있습니다

郵政民営化を推進する?

内閣官房は耳慣れない組織だと思いますが、内閣と総理大臣を事務的に補佐する役割を担っています。政策ごとに関連する省庁などから職員を集めて構成されるため、総務省とはまた違った雰囲気職場です。日本郵政をはじめとする会社が株式会社となった時点で、郵政民営化は完了したと思われるかもしれませんが、しかし郵便サービスは国民の生活に欠かせないものであるため、完全に民間に任せるのではなく、全国で適切な運営がされるように総務省等が監督をしています。郵政民営化推進室では、郵政民営化の進捗状況を検証し、国会に意見を報告する「郵政民営化委員会」の運営などを行っています。郵便という生活に身近なものを扱うため、国家公務員の中でも利用者である国民の目線に立って考えやすい仕事ではないかと思えます。

グローバルもローカルも

入省して最初に所属した部署では、ICT分野に関する米国との二国間の政策協議、海外の政府関係者との意見交換などの業務を担当していました。初めてワシントンDCへ出張し、専門用語が英語で飛び交う会議の内容を必死にメモしたことを覚えています。国際会議や海外出張の多いグローバルな職場から異動し、現在は日本全国各地にある郵便局の活用など、郵政事業の展開について考える部署にいます。情報通信分野に限らず、扱う業務の幅の広さが総務省の一番の魅力だと思います。入省する前は、総務省は業務内容がイメージしづらい省庁でした。入省してからは、メディアで「総務省」という名前を聞かない日はないくらい、暮らしに密接に関わっているということを実感しています。他府省への出向も含め、様々な可能性のある職場です。